

## 平成 29 年度「長崎県立長崎東高等学校出張授業」活動報告

平成 29 年 6 月 26 日（月）に、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラムに在籍する留学生を中心とした学生 11 名が長崎県立長崎東高等学校（Super Global High School 指定校）で出張授業を行いました。



この出張授業は平成 27 年度より「高校生に感染症に関心を持ってもらうこと」「言語やバックグラウンドの異なる相手と議論を行う中で英語によるコミュニケーション能力や発信力の重要性を感じてもらうこと」を目的として始めました。

今年で三回目となる今回の出張授業では「気候変動と私たちの健康」をテーマとし、長崎東高校の 1 年生(50 名)を対象として、気候変動から引き起こされる様々な問題に関して英語でプレゼンテーションを行い、その後八つの小グループに分かれ具体的な問題と解決策についてディスカッションを行いました。



初めは留学生の話に静かに耳を傾けていた高校生も、気候変動という大きな国際問題が実は健康や食料供給などの身近な問題に直接的・間接的に関わっていることへの理解が深まるにつれ、「では日本は問題解決のためにどのような支援活動をしているのか?」といった国際的な視点からの質問を留学生に投げかけたり、「自家用車の利用を減らし公共交通機関や自転車を利用してはどうか」「二酸化炭素の排出を減らすためガスコンロの代わりに電磁調理器を利用してはどうか」「それならバイオ燃料を用いるのがいい」といった意見が飛び交ったりと、活発な議論が展開されました。また難解な英語表現を既習の語彙を駆使して伝達しようとするなど、意欲的に留学生とコミュニケーションを取ろう、自分の意見を発信しようとする姿勢が見られました。



本出張授業を通して、専門的な知識の提供だけでなく、一つの問題を多角的に捉え解決策を導き出す創造的かつ論理的な議論の時間を高校生と持つことができました。この経験が SGH プロジェクトの課題研究の中でも活かされることが期待されます。また、本プログラム所属の学生にとっても、目的を明確に提示し限られた時間の中でより良い意見交換をいかに進めていくかを学ぶ有意義な時間となりました。

私たちは今後もこのような連携活動を通して、情報発信・社会貢献を継続していきたいと考えております。